

平成30年度 学校評価報告書【国立市国立第四小学校】

学校教育目標	◎よく考え進んで学ぶ子 ○自分も友達も大切にする子 ○正しく判断し行動できる子 ○体を鍛え最後までやりぬく子	重点目標	◎よく考え進んで学ぶ子
--------	---	------	-------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	分析		改善策	学校関係者評価	
					中間評価	最終評価			
◎よく考え進んで学ぶ子	確かな学力の向上を目指す	学習規律の確立	発表の方法を統一する	「返事・立つ・です」ができる児童を90%にする。	B	B	様々な場面で、できたことを褒めながら、姿勢やチャイム着席等と合わせて指導していく。【授業規律の再確認】	丁寧に「返事・立つ・です」を行っているクラスとそうでないクラスがあるが、場に応じて臨機応変に対応できていればよいと思われる。	
			自分の考えを発表する機会を意図的に設定する。	「聞く」態度について児童の自己評価を90%にする。	A	A	児童の興味・関心を高める授業や児童との信頼関係をより深められるような「ふれあい」を大切に、この姿勢が継続できるように指導していく。【学級経営の充実】	聞く態度は全体的にととも良いが、気になる児童もいた。	
		授業改善	問題解決的な学習過程を重視した授業を実践する。	児童が「めあて」と「まとめ・振り返り」を意識して授業を受けている。 目標数値・・・90%	B	B	授業の「めあて」を児童と共に考え、提示することを80%以上の教員が毎時間、心がけている。児童や保護者アンケートからは、児童にとって、見通しをもったわかりやすい授業をしているとの評価が90%を超えている	「めあて」を示し、工夫された授業がすすめられているが、「まとめ」の時間が足りなくなる傾向がある。簡単でも振り返りが行えるとよい。	
		学習習慣の確立	定期的な家庭学習により学習習慣を身につける。	宿題の提出期限を守る児童を90%にする。	B	B	全体的に80%以上が肯定的な回答をしている。しかし、教員の認識は約70%だったことから、児童と教員との間にずれがある。家庭学習の習慣確立のために分かりやすい方法を提示する。	学年間で宿題の量や内容を吟味し、定期的に宿題を出すことを継続する。また、家庭へのお知らせ方法を改善し、共に家庭学習の習慣を確立させていく。	宿題はしっかりとやっているが、宿題のある、なしをお便り等で示して欲しい。(特に高学年)
		読書活動の充実	定期的な朝読書や読み聞かせを通じて、本に触れる機会を増やす。	本に触れる機会を増やし、多くの語彙や表現を獲得すると共に、文章を読解する力を養う。 目標数値・・・80%	B	B	昨年度より、読書に親しむ児童が少ない傾向が見られた。これは、学校の方針として外遊びを推奨した結果、外遊びをする児童が増えた事で休み時間に本に触れる機会が減ったからだと考え。	読書活動を充実させるために、読書週間の更なる充実と新着図書拡充に取り組んでいく。【読書週間の充実・学校司書と連携した新着図書の拡充】	教師や保護者による読み聞かせ、読書マラソンなどを行い、本に親しませる活動が行われていて評価できる。幼いうちから本に親しませることが読書好きに繋がる。
○自分も友達も大切にする子 ○正しく判断し行動できる子	豊かな言語環境の整備を進める 思いやりを大切にする教育の推進する	「道徳の時間」の充実	言語環境の整備	時と場に応じた言葉づかいに対する児童の自己評価を80%にする。	B	B	教師が模範となる言葉づかいを示し、言語環境を整え、「気持ちのよい言葉がよりよい人間関係づくり」に繋がる事を全校一丸となって指導をしていく。【言語環境整備と道徳教育充実】	時と場に応じた言葉づかいができているが、友達同士での会話では、気になる言葉もある。教師や保護者が模範となる言葉遣いをすべきである。	
			あいさつの励行	児童の自己評価による「あいさつ」の励行を90%にする。	B	B	昨年度と比較して全体的に肯定的な回答が減った。学期ごとの挨拶運動は効果が出ている反面、学校全体として挨拶の日常化にまでは到達できていない事が分かった。	登校時の挨拶や、大人から挨拶されたら挨拶を返すということではできているが、自分からすすんで挨拶できるようになるとよい。	
			実践力の育成	「思いやりのある行動ができる」児童(自己評価)80%を目指す。	B	C	全体で約7割の児童が肯定的な回答をしている。低学年は8~9割の児童が肯定的だが、学年が進むにつれ、自己評価が低くなる傾向が見られる。	丁寧に児童理解を行うと共に、実生活に活かせる道徳の授業を推進し、思いやりの心を更に育てる。【実生活に通じる道徳教育の推進】	高学年になると、周りの様子を見て動く傾向があるので、何かしてあげようと思ってもできない場面があると思われる。
○体を鍛え最後までやりぬく子	健康への関心と実践力を高める	体力の向上を目指す	規則正しい生活習慣を確立する。	毎朝、必ず朝食をとる自己評価を95%とする。	A	A	全体的に9割の児童が朝食を食べてから登校できている事が分かった。これは、基本的な生活習慣の獲得に向けて、学校・家庭・PTAが密に連携できているからと考える。	日々の生活指導や保健指導を通して、児童が健康で豊かな学校生活を過ごせるように指導・支援していく。【基本的な生活習慣の獲得に向けた学校・家庭・PTAの連携の更なる充実】	朝食をしっかりとって登校していることは評価できる。今後も指導を続けて欲しい。
			体育の授業の充実	体幹の強化…正しい姿勢で座ることのできる児童を90%にする。	C	C	児童全体では7割が肯定的な回答をしているが、学年が進むごとに「姿勢」を意識して授業を受けることができなくなっている。	コアオーディネーショントレーニングを継続する。また、家庭と地域と連携しながら、よい姿勢で生活することの習慣付けに取り組んでいく。【学校・家庭・地域との連携強化】	字を書いている時に姿勢が悪い児童がいる。体幹強化に今後も取り組んで欲しい。

達成状況の指標 A: 90%~100% B 80%~90% C ~80%